

氏 名	ムサラム サッカ アミニ Mousallam Sakka Amini
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学位記番号	博 甲 第 54 号
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科機能科学専攻
学位論文題目	THE ISLAMIC AND JAPANESE ARTS, ARCHITECTURES, SOCIETIES AND PHILOSOPHIES A MYSTICAL ENCOUNTER (イスラムと日本の芸術、建築、社会及び哲学における精神的比較)
審 査 委 員	(主査) 教 授 藤 本 康 雄 教 授 河 邊 聡 教 授 日 向 進 教 授 材 野 博 司

論文内容の要旨

第 1 章

序説では、意図、方法及び実証を中心に、3つの基本的な問題、選択の理由、正当性、目的について述べている。なぜ他のものから日本とイスラム圏を選んだかという理由と、この論文の大義が何であるかを説明する。同様に、一般的な手段及び全体的な考察と方法を説明する。伝統芸術や建築様式は、原型的な象徴の遺産にすぎないことを論じた。こうした象徴はそれらの機能的、あるいは審美的なかわり合いを越えた深い造詣の意味を持つ。本章では比較の精神面が、ものや環境、あるいはその他の要因よりも強調されて来た理由も述べている。

第 2 章

宗教では、日本とイスラムの芸術と建築様式を生んだ基本的な宗教思想を説明する。一方に日本の精神思想を形成した神道・仏教、老荘哲学があり、一方、イスラム教はイスラム文化のあらゆる表明の精神的な基礎をなすからである。本章では、芸術と建築様式の創造における役割を演じてきた概念を主に強調する。この宗教的解説は、その解釈と理論の比較に基づいたこの研究の背景にあるものを示している。

第 3 章

ここでは人間の思想と生産物である建築の内面の対話を分析する。人間の信仰と環境がどのようにその生産物のすべてを形成して来たかを明らかにし、イスラムと日本の宇宙概念を定めるとともに、歴史を通じて主な建築様式の宇宙概念を明らかにした。本章では、人間の歴史の各時代に独特で有力な精神思想や哲学があることを仮定する。必然的にこれらの時代の表明の特色が一致する。その造詣の深い芸術や建築様式を一層理解するために、宇宙論や存在論的な思想を解明し、本章の特色のひとつとして、イスラム教の内部哲学に踏み込んでいる。

第 4 章

礼拝の場所では、イスラム世界と日本の宗教的な聖域の特徴を示している。イスラム世界のモスク及び日本の寺、神社、教会のそれぞれの宗教、社会、建築、都市生活の特徴を解説・比較している。いわば「宇宙空間、宗教建築の図像学」を試みたものである。とりわけこの章では、「啓蒙」の方法と建築の関係を明らかにし、日本の神社や寺が町の周辺や遠く離れたところにあるのに、何故モスクがいつもイスラム

都市の中心にあるのかを示した。何故モスクには正面の門がないのに、神社や寺では必ずといってよいほど正面に門があるのか。また、モスクでは内部の空間が最も重要であるが、内部の空間の全くない神社や寺が多くあるのかを説明している。アヤ・ソフィア、東大寺、スレイマン・モスクの3つの建築を具体的に比較し、その後同じように伊勢神宮、西本願寺、ランス大聖堂、コルドバ大モスクを比較した。最後に門と鳥居と正面玄関、パゴダと塔とミナレット、後陣と壁龕と脇殿等、宗教上の具体的な建築模様を比較解説した。

第5章

住宅建築では、日本とイスラム世界の家族、社会、家の特徴を説明し、社会的・家族的な側面の比較を取り上げている。まず、日本とイスラムの家屋のプロトタイプ、建築、発展を論じている。次に、自然と家屋の関係、家屋が地域の気候や周りの環境にどのように適応しているかを述べている。第3に日本とイスラム家屋の空間の概念についての精神哲学を述べている。第4に方位の精神的な基盤、日本とイスラム家屋の陰陽の概念を合わせて説明している。最後に、家族と社会という観点から日本とイスラム家屋を比較している。全体としてこの章では、イスラム家屋の内向性、中心性、地味さ、女性らしさと、日本家屋の外向性、直線型、明瞭さ、男性らしさを比較して論じている。

第6章

一般的な比較では、これまでの章で論じてきたことを結論づけている。日本とイスラムの建築と芸術に共通していること、またそれぞれに特有なものについて一般的に取り上げている。とりわけ、日本の建築資材の実直さ、建築構造、正面、わび・さび、流動性、統一性、反復性を論じている。また、イスラム建築の内向性、簡素さ、数学的特徴、天空の由来について解説している。

第7章

都市とコスモスでは、まず最初に都市の意味を述べている。次に、新しく定住する時に、用地を選択する前提条件を描写している。イスラム都市の場合の前提条件は、食糧事情、人間的な事情、環境条件、治安、経済事情、直接の精神条件である。日本の都市の場合は、最も重要な前提条件は中国の都市の前提条件と似ている。中国では、新しい用地の周りの地理的条件、基本的には現実的な理由が揃っているかどうかを重視する。次に、日本とイスラムの都市の都会生活の全体的な物理的・精神的特徴を取り上げている。最後に、空間・社会・精神面から、街並みの伝統的ネットワークの特徴を解明している。

第8章

装飾・書画・絵画では、日本とイスラム世界の装飾・書画・絵画の違いと類似性を取り上げている。ここでは、以前の章を比較した結論と、この章に反映した比較の間のつながりを確立しようとした。この章では、日本の書道の自発的で内的な筆さばきが、規範的かつ入念で、内的かつ規則正しいイスラム書道に対比されている。最後に、日本とイスラム世界の芸術、建築、都市を総合的に比較した結論を述べている。

論文審査の結果の要旨

申請論文は、日本とイスラムの場合の比較において、建築の精神性・宗教性という視点からその根源的な成立の動因と、形態への顕現過程を考察したものである。神道・仏教にはじまり、老荘哲学から陰陽の術に及んで、日本の精神風土の生成を精密に考察し、建築への反映の状況を解明した。さらに、日本とイスラム建築に共通する或る種の精神性の表出を、西欧建築の物質性と対比させ、イスラムの求心的精神性と、西欧の即物的自然性の中間に日本の外向的抽象自然性をおいて、ひとつの精神構造のヒエラルキーの建築的具現を最終結論として導いている。全編、325ページを越える労作である。短時日の間に孜々として資料を収集した努力は多とされる。参考文献からの引用も適切でよくこなされている。イスラム圏での日本建築研究はなお未だしと見られ、申請者の本論文が持つその嚆矢的意味は大きい。

論文の一部は、審査を経て建築史学会誌に既に掲載済である。他の一部は日本建築学会論文報告集に採

用決定となり印刷中である。よって申請論文は学位授与に値すると認められる。